

農作物技術情報 第2号の要約

平成31年 4月25日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p>生育状況: 播種作業は終盤を迎えている。苗の生育は概ね平年並である。</p> <p>技術対策</p> <p>育苗管理: こまめな温度・水管理に努める。特に低温時の苗立枯れ、高温時の細菌病発生に注意。イネばか苗病が発生した場合には、粃ごと苗を抜き取り、本田に持ち込まないように努める。</p> <p>田植え: 天候のよい日を選んで田植えを行う。活着促進のため、こまめな水管理に努める。</p> <p>雑草防除: 除草剤は雑草の種類や使用時期に応じて選択する。散布時期や方法を厳守する。</p> <p>葉いもち予防: 稲わら・粃からは育苗施設付近に置かない。取置苗は土中埋没等で直ちに処分する。</p>
畑作物	<p>生育状況: 小麦の生育は平年並。雪腐病や縞萎縮病等の病害の発生は平年よりも少ない。</p> <p>技術対策</p> <p>小麦 追肥作業: 減数分裂期以降の後期追肥は、生育量や生育ステージを確認して適期に行う。</p> <p>赤かび病防除: 赤かび病の防除は、開花始期～盛期に必ず実施する。</p>
野菜	<p>生育状況: 果菜類の苗の生育及び定植後の生育は概ね順調。露地葉菜類は4月上旬の低温や降雪の影響で、3月に定植したねぎやレタスの生育が遅れ、4月定植分の定植作業にも遅れが生じた。</p> <p>技術対策</p> <p>施設果菜: 天候に応じて朝晩は保温資材・補助暖房を活用して保温を行うほか、日中は高温になりすぎないように換気に努める。灌水の必要がある場合、日中の温度が高いうちに行い適湿を保つ。</p> <p>露地きゅうり: 圃場の土壌 pH を適正にするとともに、排水対策などの圃場準備を進める。</p> <p>露地葉菜類: 定植後はべたがけ資材で植え傷みや凍霜害を回避し、適切な時期に除去する。</p> <p>雨よけほうれんそう: ホウレンソウケナガコナダニの防除対策を徹底する。</p>
花き	<p>生育状況: 露地りんどうは、3月下旬以降の低温・降雪の影響により、生育は平年並からやや遅れている。小ぎくは、今後も低温傾向で推移した場合、現在育苗中の8月咲品種で発根の遅れ、これから挿し芽作業が本格化する9月咲以降の品種で挿し穂の不足や挿し芽作業の遅れがそれぞれ懸念される。</p> <p>技術対策</p> <p>りんどう: 株仕立て等季節の作業を適期に進めるとともに、圃場が乾燥しないよう留意する。</p> <p>小ぎく: 育苗、定植作業を計画的に進める。</p>
果樹	<p>生育状況: りんごの生育ステージは、蕾の露出～着色期となっており、平年並からやや早めの生育となっている。</p> <p>技術対策: 現在、凍霜害に最も弱い生育ステージとなっているので、毎日の気象情報に注意し被害軽減対策の徹底を図る。</p> <p>りんご: 結実確保のために人工授粉の徹底と、大玉生産及び隔年結果防止を図るため、摘花剤・摘果剤を積極的に利用しながら、早期の適正着果を図る。</p>
畜産	<p>技術対策</p> <p>飼料用とうもろこし: 品種選定と基本技術を再確認する。適切な栽植密度で播種を行う。また、収量確保には初期生育が重要なため、雑草・害虫の防除を適切に行う。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <https://i-agri.net> (「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます)

○農業適正使用: 使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

○農作業安全: 事故のないよう、農作業安全に十分留意してください。

次号は平成31年5月30日発行の予定です